

令和4年度 研究紀要 第238号

《 研究主題 》

個別最適な学びと協働的な学びの 実現に向けた授業づくり

～2年次～

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びの授業改善
- (2) 個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践
- (3) 各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント



白老町立白老小学校 6年 高井 さくら

胆振教育研究所



《巻頭言》

「現場で役立つわかりやすいものを」

胆振教育研究所長 坂本 博

本研究所は、「胆振管内の教育の進展に寄与する」という目的に迫るため、「今、学校に求められていることは何か」、「現場が求めていることはどんなことか」を大切にしています。そして、研究の成果をより使いやすい形で管内各学校の先生方に還元することを心掛けて活動しています。

平成30年度から令和2年度までの3年間は、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」に焦点を当て研究に取り組み、3冊の紀要にまとめました。

令和3年1月に、中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して「～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」という答申が出されました。続いて、令和3年3月に、文部科学省初等中等教育局教育課程課から「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」が出されました。

それを受けて、令和3年度からは「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」に焦点を当て、3年計画で研究に取り組むことにしました。昨年度は研究内容を、(1) 学習指導要領の趣旨 (2) 個別最適な学びと協働的な学びのおさえ (3) ICT活用に関する基本的な考え方 とし、研究紀要第235号としてまとめました。

今年度は3年計画の2年次として、(1) 個別最適な学びと協働的な学びの授業改善 (2) 個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践 (3) 各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント について、理論の整理と実践の収集に努めました。授業改善の部分では「個別最適な学び」での『指導の個別化』と『学習の個性化』について、「協働的な学び」ではその活動例について、現場での活用法をまとめました。具体的な実践では7人の先生方にご協力いただき、実践例を紹介しています。また、学びのポイントは教科ごとに小中かかわらず活用できるよう工夫したつもりです。この紀要がより多くの先生方の目に触れ、少しでも活用していただくと幸いです。

終わりになりますが、本研究の推進にあたり、ご指導とご協力をいただきました胆振教育局をはじめ、各市町教育委員会並びに各市町教育研究会の皆様深く感謝申し上げます。研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。

もくじ

「研究紀要の発刊にあたって」

胆振教育研究所長

坂本

博

I 研究の構想

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究内容	2
4	研究の全体構造	2

II 研究内容

1	個別最適な学びと協働的な学びの授業改善	
	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	3
	・個別最適な学びの授業改善	4
	・協働的な学びの授業改善	5
	・コラム ICT の効果的な活用	6
2	個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践	
	・主に個別最適な学びが行われているパターン	7
	・主に個別最適な学びと協働的な学びが 交互に行われているパターン	9
	・主に個別最適な学びと協働的な学びが 同時に行われているパターン	15
	・単元計画の中での個別最適な学びと協働的な学びのパターン	19
3	各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント	
	・国語科、社会科	21
	・算数・数学科、理科	22
	・生活科、音楽科	23
	・図画工作・美術科、家庭科	24
	・体育・保健体育科、外国語活動・外国語科	25
	・特別の教科 道徳、総合的な学習の時間	26
	・特別活動	27

III 今後の方向性

	・今年度の研究を振り返って	28
	・参考資料一覧、研究・執筆	29
	・あとがき	30

I 研究の構想

1 研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり

2 研究主題設定の理由

(1) 教育改革の動向より

Society5.0時代が到来し、急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識することが求められています。また、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

これらの資質・能力を育むためには、学習指導要領の着実な実施が重要です。学習指導要領では資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、児童生徒が「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要です。

私たち教員は、このことを踏まえて、全ての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを推進することが求められます。

(2) 研究所の研究から

令和2年度の本教育研究所の理論研究「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」から、次のようなことがわかりました。

- 胆振管内の多くの学校で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに向けた取組ができた。
- 単元デザイン例を作成することにより、指導計画と学びの実践ポイントを明確にすることができた。
- 今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要になる。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても子どもたちの多様な興味を引き出し、学びを提供できるように、先進的な実践や各学校での具体的な取組を交え、研究を深めていくことが大切だと考えます。

3 研究内容

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの授業改善
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践について
- ・ 各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント

4 研究の全体構造

【教育活動の動向（児童生徒の課題）】

- ・自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することが求められている。
- ・様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質・能力の育成が求められている。

【研究所の研究から】

- ・胆振管内の多くの学校で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに向けた取組ができた。
- ・単元デザイン例を作成することにより、指導計画と学びの実践ポイントを明確にすることができた。
- ・今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要になる。

【研究主題】

「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」

【研究仮説】

令和の日本型学校教育の構築を目指して、個別最適な学びと協働的な学びの実現についての共通認識のもと、授業と家庭学習の一体化を図ることや、全ての教科・領域において ICT 等を活用した授業づくりを行うことにより、個別最適な学びと協働的な学びの実現ができるだろう。

【1年次】理論研究の基礎・基本

- ・学習指導要領の趣旨
- ・個別最適な学びと協働的な学びのおさえ
- ・ICTの活用に関する基本的な考え方

【2年次】理論研究に基づく実践研究

- ・個別最適な学びと協働的な学びの授業改善
- ・個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践について
- ・各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント

【3年次】理論研究のまとめ

- ・個別最適な学びと協働的な学びの要点の整理
- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた各教科等の授業デザイン
- ・研究のまとめ

Ⅱ 研究内容

1 個別最適な学びと協働的な学びの授業改善

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

令和3年の中央教育審議会答申では、個別最適な学びと協働的な学びについて、

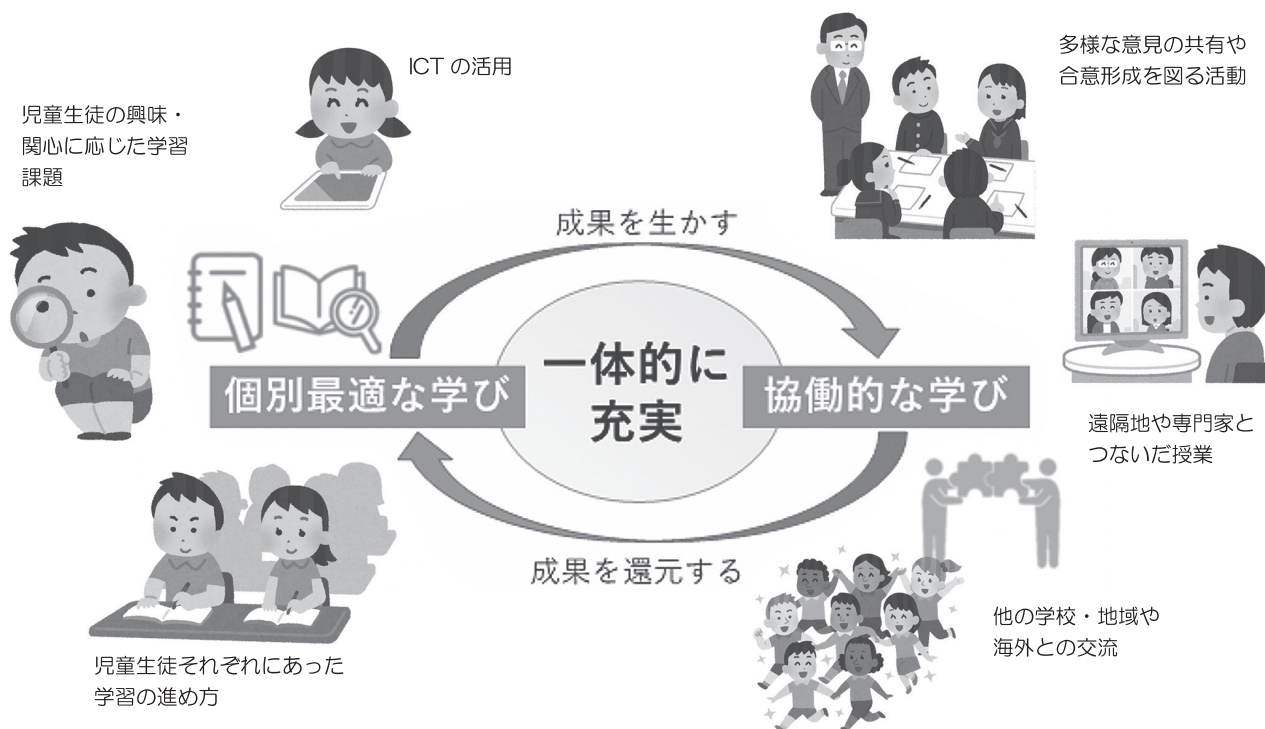
個別最適な学び…「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理し、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるようにする。

協働的な学び……探究的な学習や体験的な学習を通じ、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の作り手となることができる資質・能力を育成する。

と示しています。

個別最適な学びでは、「指導の個別化」で確実な資質・能力の育成を図り、「学習の個性化」で学びの質を高めて深い学びの実現につなげていきます。協働的な学びでは、クラスメイトや異学年・他校の子、地域の方々など多様な他者と学ぶことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出します。

個別最適な学びでの成果を生かし、協働的な学びで成果を還元することで、学びの一体的な充実につながります。



個別最適な学びの授業改善

個別最適な学びを充実していく上で、「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めていくことは言うまでもありません。それぞれの側面で授業改善を行うために、次のようなことが考えられます。

指導の個別化



- ICT活用により得られるデータを活用し、きめ細かく学習の状況を把握・分析
- 個々の児童生徒に合った多様な方法で学習
- 学習履歴、生活・健康面の記録等、様々なデータを可視化し、学習方法等を提案するツールの活用



確実な資質・能力の育成

※ 児童生徒が自らの状態を把握し、自らに合った学習の進め方を考えることができるよう、教師による指導を工夫していくことが重要

授業の場面で考えると…

- ・ 課題に対してどのような方法で学習を進めるかを考える。
- ・ ICT機器を活用して自分に合った方法で課題解決を行う。
- ・ ドリル教材で自分のペースや課題に合った問題を解く。

学習の個性化



- 情報の探索
- データの処理や視覚化
- レポートの作成
- 情報発信



学びの質の高まり、深い学びの実現

※ 児童生徒がこれまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいけるよう、教師による指導を工夫していくことが重要

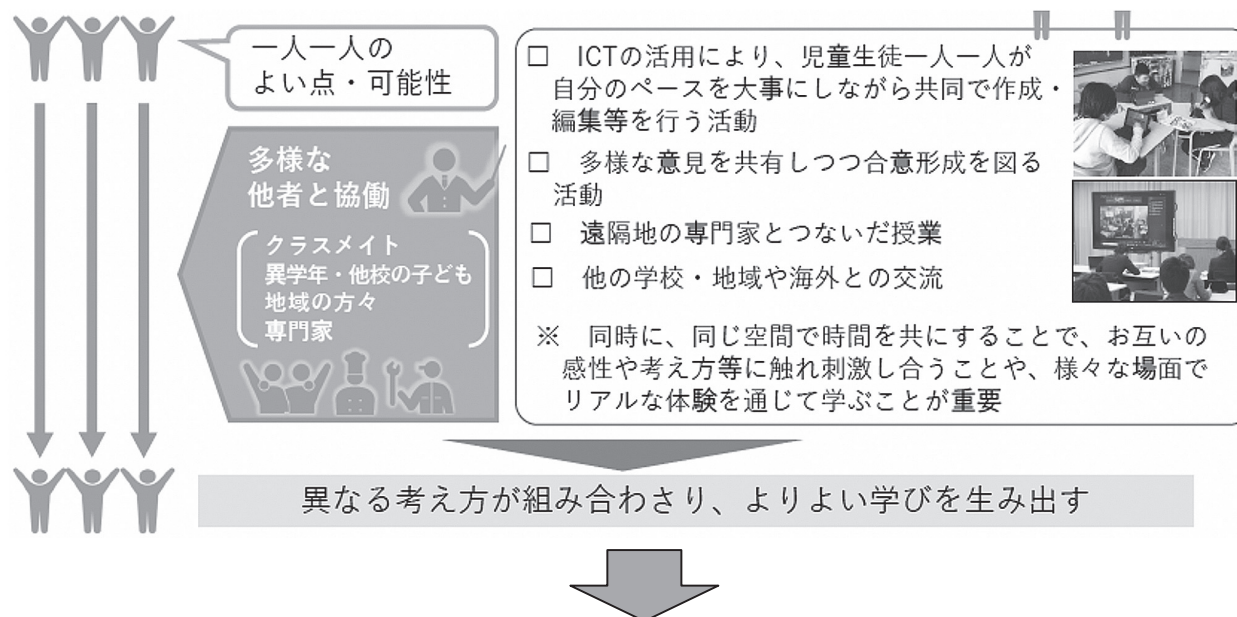
授業の場面で考えると…

- ・ 自分の興味、関心や経験などから児童生徒自ら学習課題を設定する。
- ・ ICT機器を活用して児童生徒自らが調べる。
- ・ 調べたことを、プレゼンテーションソフト等を活用して児童生徒自らがまとめる。

全ての児童生徒に同じように授業をするのではなく、どのような方向性や自分に合った方法で学習を進めるのかを自己決定させ、自己調整しながら、児童生徒自身が主体的に学びつづけることができるようにすることが大切です。

協働的な学びの授業改善

個別最適な学びで身に付けた資質・能力や学びの質の高まりを協働的な学びにつなげていくことで異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びが生み出されます。協働的な学びの視点で授業改善を行うために、次のようなことが考えられます。



授業の場面で考えると…

- ・自分の考えをペアやグループで説明をする。
- ・他者の意見から、新しい考えを見つける。

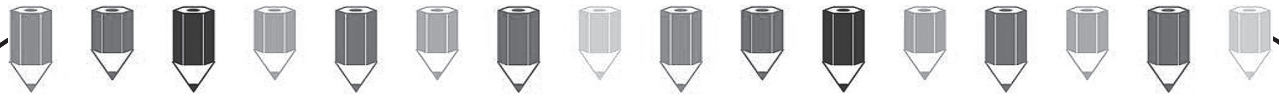
「個別最適な学び」では、学びの孤立化や格差・分断の拡大、視野の狭まりにつながるおそれがありますが、「協働的な学び」にはそれを是正するはたらきもあります。協働的な学びの効果を高めるには、学級経営を充実し、児童生徒が違いを認めて協力し合える学級づくりを進めることで実現されると考えます。

この他にも、異学年間の学びや他の学校の児童生徒との学び合い、地域の人々や多様な専門家との交流なども協働的な学びに含まれます。学校行事や児童会（生徒会）活動など様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実することで、児童生徒がこれまでの成長を振り返り、将来への展望を培うとともに、自己肯定感を育む取組も大切です。

「個別最適な学び」や「協働的な学び」の詳しい内容については、昨年度の研究紀要を参考にしてください。



令和3年度研究紀要



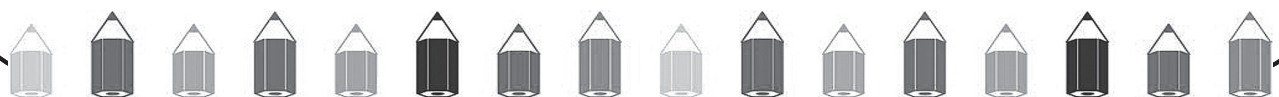
コラム：ICT の効果的な活用

令和3年1月中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、個別最適な学びと協働的な学びの充実のために ICT の効果的な活用を示しています。それでは、実際にどのような場面で活用できるのでしょうか？文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」には、具体的な活用場面として次のような活用例が示されています。

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通して、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

この活用例を見ながら、日頃の授業場面のどこに当てはまるのかを確認してみるのもよいかと思います。

授業の中での「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するように一体的な充実を図ることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが可能になります。これまでの授業方法や教科書の使い方、教師の役割、児童生徒同士の学び方を見直し、ICT 機器の適切な活用方法を見出だせるようにしたいですね。



2 個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践

胆振教育研究所では、胆振管内の様々な学校を訪問しています。その中で、個別最適な学びや協働的な学びの実践が多くありますので紹介したいと思います。

①主に個別最適な学びが行われているパターン

伊達市立光陵中学校 柴田 敬先生の実践	
学年・教科	中学校1年 英語科
単元名	Program7 Research on Australia (Sunshine English Course 1)
本時の目標	内容を意識しながら会話文を読むことができる

○本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される生徒の発言等	◇教師の働きかけ	評価規準	努力を要する生徒 への支援
導入 (5分)	○新出単語の確認 (2回目)	○発音を重点的に意識させる。		
【課題】内容を意識しながら会話文を読もう！				
展開 (35分)	○本文の動画を見る。 ○本文の発音を確認 (全体) ①1語読み (復唱) ②1文読み (復唱) ③役割読み (生徒全体と教師) ○本文の読み込み (ペア) ※Chromebook使用 ①ペアで一斉 ②ペアで1語交互読み ③ペアで1文交互読み ④ペアで役割読み	◇デジタル教科書の動画を見て、内容理解を促す。 ◇内容理解を促す質問を適宜行う。(日本語中心) ◇モデルリーディング 発音・スピードを意識させる。 ◇レベル1～5のシートを選ぶように指示。レベルアップ・ダウンも自分で、どのタイミングでもしていいことを伝える。	行動分析	発音しにくい単語は取り上げて、全体で確認。 側に寄り添い、わからない発音等を適宜伝える。
<p>◆以下の段階別のシートを提示し、自己決定をさせ、できたら次の段階へ進める状況をつくり、生徒の意欲を引き出したい。</p> <p>【個別最適な学び (指導の個別化)】 → 【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Level.1 のシートは単語に読みと意味がついている。 ・ Level.2 のシートは新出単語を中心に単語の読みがついている。 ・ Level.3 のシートは何もついていない本文のままの状態。 ・ Level.4 のシートは新出単語を中心に日本語がある状態。 ・ Level.5 のシートは新出単語を中心に空欄になっている状態。 				
まとめ (10分)	○ワークシートに取り組む ○解答の確認	◇選択式の問題と記述式の問題に取り組ませる。	行動分析 (後日、記述分析)	状況に応じて、ヒントを伝える。

詳細は右ページ

柴田先生の「個別最適な学び」(指導の個別化)の手だて

レベル別に複数のシートを PDF で用意し、Chromebook 内で生徒が選択し、読めるようにした。

○柴田先生が用意したレベル別シート

Level1

①M: It's summer / in Australia / now.
イツ サ マ ー / オースレリア ナウ
夏です / オーストラリアは / 今

②K: What / do you do / in summer / , Emily?
ワットゥ ドゥ ユー ドゥ イン サ マ ー エミリー
何を / あなたは しますか / 夏に / エミリー

Level3

①M: It's summer in Australia now.
②K: What do you do in summer , Emily?

Level5

①M: It's in Australia now.
②K: What do you do in summer , Emily?

○授業の様子



生徒は、柴田先生と十分に読む練習をした後、それぞれ自分に合ったシートを選んで、ペア読みをしていました。ペア読みは複数回行い、生徒はシートをレベルアップさせたり、レベルダウンさせたりしながら読んでいました。

学習に苦手意識のある生徒も、意欲的に読む姿が見られました。また、授業の最後に、本文の内容をどれくらい理解したか、評価するためのミニテストを実施していました。全員がしっかり取り組み、正解していました。

柴田先生が用意した手だてにより、生徒全員が本時の目標に到達することができていました。

②主に個別最適な学びと協働的な学びが交互に行われているパターン

洞爺湖町立とうや小学校 福山 美沙先生の実践	
学年・教科	小学校4年 算数科
教材名	割合
本時の目標	何倍かの関係にある2量のうち、「基準量」がわからない場面で、関係図を用いて、その量を求めることができる。

○本時の展開

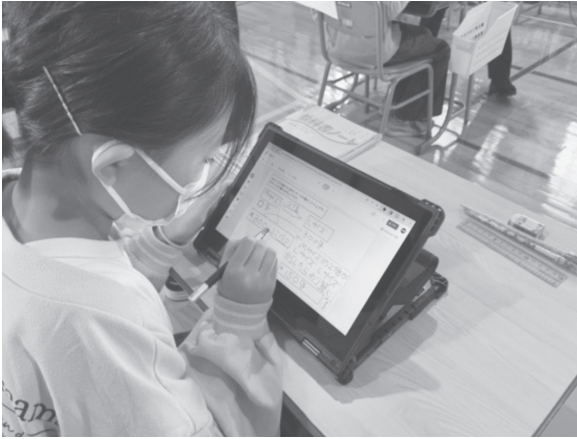
時	主な学習活動(★はリーダー学習)	支援活動(◆ICT機器の活用)	評価規準
つかむ	★問題の把握	◆デジタル教科書で提示。	
	Mサイズの重さの2倍がLサイズの重さ300gです。Mサイズの重さは何gですか。		
見通す	★問題文から、分かっていること聞かれていることを整理する。	◆Jamboardを開き、問題文の分かっていることと聞かれていることに線を引く。	
	① 割合を図に表して、わからない量を求めよう。		
自力解決	★問題場面を関係図に表して、Mサイズの重さを求める。	◆Jamboardに関係図や式・答えを書き込ませる。 個別に考える場面	
集団解決	★考えたことを、友達と交流する。 ★考えたことを全体で共有する。	◆Jamboardを使って、友達と自分の考えを交流させる。 ◆Jamboardの自分のページをテレビにキャストさせる。 ◆児童は、自分のタブレットで発表する友達のページを開く。 協働して学べる場面	
まとめる	・関係図と式、答えを算数ノートにまとめる。 ② 割合を図に表すと、わからない量も求めることができる。 ★学んだことを活かして△3の②に取り組む。 ・本時の学習を振り返る。	◆デジタル教科書で確認したうえで、出てきた関係図や式・答えを板書する。 ・答え合わせは、教師で行う。全体で関係図とテープ図を共有したうえで、式と答えの確認をする。 学んだことを振り返る場面	【思・判・表】 数量の関係を図に表して考えたり説明したりしている。 (ノート・発言)

福山先生の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を交互に組み合わせた指導

○個別に考える時間

◎協働して考える時間

○学んだことを振り返る場面



○個別に考える場面

考えの見通しを立てた後、自力解決の際には Jamboard を活用し、自分の考えを書き込んでいます。必要な図や表は事前に教員が準備し、それぞれのシートに貼り付けてあります。また、途中で思考が止まった児童のために、ヒント用のシートを準備し、他の友達の影響を見て参考にするなどの声かけを行っています。



◎協働して考える場面

自力解決で調べたことを、ペアで交流しています。タブレットでお互いの考えを共有し、相違点や考えの根拠などを説明しています。また、考えが変わった際は、相手の考えを聞くことで、考えをより深め、広めています。



○学んだことを振り返る場面

本時で学んだことを振り返り、授業で気付いたことや自分の課題などを明確にし、今後の学習に生かそうとしています。

少人数のメリットを活かし、課題に向き合う時間を十分にとっています。また、思考が止まった際も、ヒントシートや他者の考えを活用して問題に取り組むことができます。個別最適な学びと協働的な学びが1時間の授業の中に一体的に行われています。

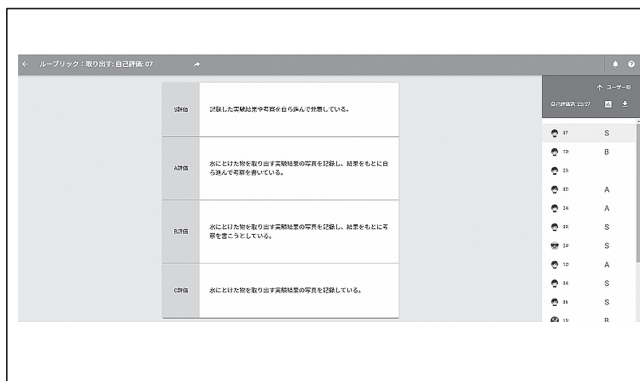
伊達市立伊達西小学校 曾我部 光雄先生の実践	
学年・教科	小学校5年 理科
教材名	物のとけ方
本時の目標	水溶液の温度を変化させたり、水を蒸発させたりすることで、溶けている物を取り出せることを捉える。

※ 前時までには水溶液にとけている物を取り出す実験（水溶液を冷やす・水溶液を蒸発させる）を行い、実験操作の後、実験結果・考察（水に溶けた物を取り出すにはどうすればよいか）をタブレット端末上に入力している。

○本時の展開

	◆主な学習活動 ◇表現活動	△指導上の留意点 ▲手立てや支援	◎ 評価規準 (評価方法)
課題想起 (10分)	<p>◆ループリックを開き、本時の最後に自己評価する視点を確認する。</p> <p>◇前時までの実験をスクールタクトで振り返り、考察の加除修正を行う。</p> <p>◆教科書 p110 を開き、課題を振り返る。</p>	<p>△あらかじめ、スクールタクトにループリックを配布しておく。</p> <p>▲他の児童の考察をタブレット上で見られるようにする。 (閲覧モード)</p> <p>△加除修正が終了後、タブレットを閉じさせる。</p> <p>△前時までの段階で、課題・予想・計画をノートに書き留めている。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">個別最適な学びの場面① ループリック評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">協働的な学びの場面 閲覧モード</div>
水にとけた物を取り出す方法を調べ、まとめよう。			
展開 (28分)	<p>◆自分が書き留めた予想・計画を振り返り、実験の目的を振り返る。</p> <p>◆実験結果を写した画像を見ながら結果を整理する。</p> <p>◇全体で共有した実験結果をもとに、考察をノートに整理する。</p>	<p>△児童が撮影した画像をプロジェクターで投影し、水溶液を冷やすと、ミョウバンが出てきたこと、蒸発させると食塩・ミョウバンが出てきたことをおさえる。</p> <p>▲タブレットを開き、入力した考察を見ながら、ノートに考察を書かせる。その際、そのまま転記させるのではなく、これまでに整理された結果をもとに加除修正させて書かせる。(閲覧モード)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">個別最適な学びの場面② タブレットを活用した結果・考察の整理</div> <p>◎水の量を変えたり、水の温度を変えたりしたときの食塩とミョウバンの溶ける量の実験結果をもとに、物の溶け方のきまりについて考察し、表現している。 (ノート・タブレット)</p>
まとめ (7分)	◆本時のまとめをする。	△教科書 p114 を開かせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・水の温度を上げて、ミョウバンをたくさんかした水よう液を冷やすと、とけていたミョウバンを取り出すことができる。 ・食塩の水よう液を冷やしても、とけている食塩は、ほとんど取り出すことができない。 ・水よう液から水を蒸発させると、水にとけていた物を取り出すことができる。 </div> <p>◇ループリックを開き、本時までの自己評価を行う。</p> <p>◆次時の予告をする。</p>	<p>△自身が実験・考察に取り組んでいたか、発表をすることができたかを振り返らせる。</p>	

曾我部先生の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を交互に組み合わせた指導



【個別最適な学びの場面①】

本時までには学んだことを振り返る方法の一つとして、ルーブリック評価を取り入れています。授業の最初に評価規準を提示して見通しをもたせ、授業の最後にどの段階まで達成できたかを自己評価させます。



【協働的な学びの場面】

スクールタクトの閲覧モードを使い、友達が入力した結果・考察を見合うことができます。自分たちのグループの結果を他のグループと比較・共有することができます。また、友達が入力した考察を参考にしながら、最終的に自らが最適と思う考察をノートに書いていきます。



【個別最適な学びの場面②】

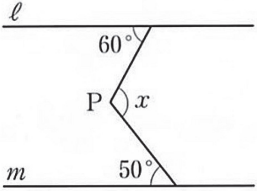
スクールタクトで実験の結果・考察を入力できるものを個別に配付し、結果が分かる画像を貼り付けたり、考察を打ち込んだりしていきます。考察については、文字入力を行うことでノートに記述することに比べ、すぐにやり直しができることで、自分の考えを確実に残しておくことができます。

スクールタクトの機能を使い、個別に入力しやすいシートを配付したり、学習活動の内容によっては友達の記録を見合ったりすることで、個別最適な学びや協働的な学びの場面になるようにしています。

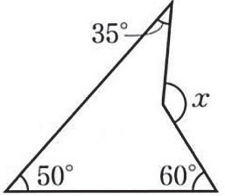
登別市立緑陽中学校 千葉 航平先生の実践

学年・教科	中学校2年 数学科
単元名	4章「図形の調べ方」1節「平行と合同」
本時の目標	・数学的な表現を用いて説明することができる。【思考・判断・表現】 ・補助線を引いて考え、角度を求めることができる。【知識・技能】

○本時の展開

過程	学習活動・内容	教師のはたらきかけ	◎評価・★手立て
導入 10分	0. 復習 前時までに習った角の名前の確認 1. 問題① ∠Xの角度は？ 	※1・mが平行なことを確認。 ○線分を1本（補助線）引いて考えてみよう。	◎補助線を引いて考え、角度を求めることができる。【知識・技能】

課題 数学的な表現を用いて求め方を説明しよう。

展開	2. 個人解決(2分) 3. ペアで交流(3分)→班で交流する。(2分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">詳細は次のページ</div> 4. 全体交流	①2人ともわかる場合考えがあっているかお互いに説明する中から考えがあっていることを確認する。 →新しい考え方がないかほかの補助線も考える。 ②片方だけわかる場合説明して考え方を共有する。 ③2人とも思いつかない場合 →最初の2分は2人で解法を考える。思いつかなかった場合は近くのペアの話を聞く。 →班活動ではどの方法が簡単かを話し合う。	◎数学的な表現を用いて説明することができる。 【思考・判断・表現】
	5. 問題② ∠Xの角度は？補助線を引いて考え、求め方を説明しよう。  平行線の問題とブーメラン型の問題の求め方	①2人とも思いつかない場合 →最初の2分は2人で解法を考える。思いつかなかった場合は近くのペアの話を聞く。 →班活動ではどの方法が簡単かを話し合う。	◎補助線を引いて考え、角度を求めることができる。【知識・技能】
まとめ	6. 振り返りの記入	5. も 3. と同じ流れで行う。	

千葉先生の「個別最適な学び」と「対話的・協働的な学び」を交互に組み合わせた指導

○個別に考える時間 ◎協働して考える時間 ○考えを共有する時間を効果的に活用



○個別に考える時間

既習内容を活用し、個別に解法を考えた。事前にスモールステップ化を行った。また、必要に応じて個別に生徒の支援を行った。



◎協働して考える時間

個別に考えた内容を効果的に活用するため、以下の工夫を行った。

① 2人ともわかる場合

お互いに説明し、考えが正しいかを確認した。
→新しい考え方がないか別の補助線も考えた。

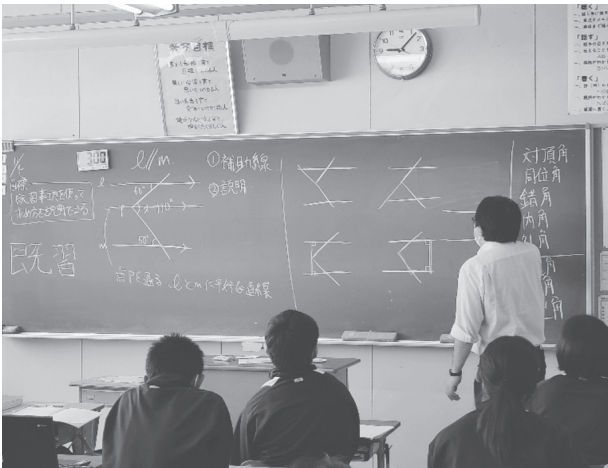
② 片方だけわかる場合

説明して考え方を共有した。

③ 2人とも思いつかない場合

→最初の2分は2人で解法を考えた。思いつかなかった場合は近くのペアの話聞き、着想を得た。

班活動ではどの方法が簡単かを話し合った。
→ペアで考えた内容をより深める事ができた。



○考えを共有する時間

それぞれの班から出た考えを、教師が支援しながら板書にまとめ、学級全体のものとして共有した。重複した考えや、見つけづらい解法などを網羅・整理することで、生徒の理解を効果的に促すことができた。

千葉先生の場面に応じた指導の工夫により、多くの生徒が本時の目標に到達することができていました。

③主に個別最適な学びと協働的な学びが同時に行われているパターン

登別市立鷺別小学校 神馬 茜先生の実践	
学年・教科	小学校6年 国語科
単元名	表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう
本時の目標	・資料が提示された文章を読み、論の進め方について自分の考えをもつことができる。【思考・判断・表現】

○本時の展開

過程	学習活動・内容	教師のはたらきかけ	◎評価・★手立て
導入 5分	1. 単元の課題、ゴールを確認する。 2. 本時の課題を確認する。	○学習の目的を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 課題 論の進め方について考えよう。 </div>			
展開 30分	3. 筆者の論の進め方を確認する。 4. パンフレットを作るときに、どのような論の進め方にしたらよいかを考える。 ・Jamboardを活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 詳細は次のページ </div> 5. 全体で交流する。 6. 本時のまとめをする。	○論の進め方を一般化させる。 ○自分が考えた論の進め方の理由を説明させる。	◎論の進め方について、根拠にもとづいた自分の考えをもっている。 【思考・判断・表現】
まとめ 10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> まとめ 論の進め方を工夫することで説得力をもたせることができる。 </div>		
	7. 次時の学習内容の確認。	○パンフレットを書くときに意識していきたいことを書かせる。	

神馬先生の「個別最適な学び」と「対話的・協働的な学び」を同時に展開する指導

○個別に考える児童と協働して考える児童が共存する時間を効果的に活用



○個別に考える

論の進め方を考えながら、1人1台端末でJamboardを活用し、パンフレットの構成を考えることを行った。Jamboardの付箋機能を使ったことにより、考えた論の進め方に合わせて自由に配置を変えて試行錯誤することができた。



あらかじめ用意しておいたJamboardの付箋

○協働して考える

パンフレットの構成を考える際に、隣同士で相談をしたり、お互いの端末画面を見合ったりする姿が見られた。また、Jamboardを活用したことで、端末上で各自の作業状況を見ることができ、他の児童の構成を参考に考えることができた。多様な考えに触れ、自分の論の進め方に合った構成を検討することができていた。



○考えを共有する時間

考えを共有する時間として、それぞれの児童が構成を提示し、論の進め方とその理由を説明する活動を設定した。Jamboardを活用しているので、各自が手元の端末で他の児童の構成を見ながら説明を聞くことができ、理解しやすくなっていた。また、説明を聞きながら他の児童の考えを取り入れ、自分の構成を編集する児童の姿が見られた。

端末を活用することで、試行錯誤が容易になり、児童の考えをより明確に表せるようになっていたと感じました。また、個人での作業と他の児童との交流を同時に保障したことにより、児童が主体的に学んでいる姿が見られました。

豊浦町立豊浦中学校 木下 友博先生の実践

学年・教科	中学校1年 国語科
単元名	『根拠を示して説明しよう-資料を引用してレポートを書く-』
本時の目標	説得力のあるレポートを作成するために、必要なことを根拠に基づいて見つけることができる。【思考・判断・表現】

○本時の展開

過程	学習活動・内容	教師のはたらきかけ	◎評価・★手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目的を確認する。 前時までの活動を振り返り、本時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで振り返った後、全体で確認する 	
課題：説得力のあるレポートを作成するために、必要なことは何だろうか？			
展開	<ul style="list-style-type: none"> 二つのレポートを比較して、説得力のあるレポートにするために必要なことを考えて、記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 4～6人程度のグループごとに、自分の気づきを交流する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 詳細は次のページ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 二つのレポートを提示する。(説得力のあるレポートと説得力の乏しいレポート) 自分の気づいていなかった点は、積極的にメモするように促す。 自分の書き方、主張と根拠のつながりなどに自信がもてない場合は、教員や友達に確認してもらうように声掛けをする。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①主張が調査結果など客観的な事実に基づいていること。 ②根拠と主張の文末表現を区別すること。 ③引用する際には出典を明記することなど、二つのレポートの比較から見つけることができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○説得力のあるレポートを作成するために必要なことをワークシートにまとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りを記入する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 詳細は次のページ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 次の時間でレポート完成させることを確認し、次時の見通しをもたせる。 	

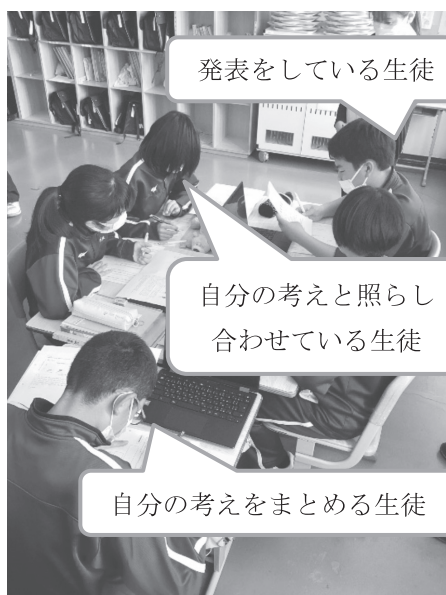
「個別最適な学び」と「協働的な学び」が同時に起こる授業



○教師側の意図を越えて、
「個別最適な学び」と「協働的な学び」は
同時に起きていることもある。



それぞれの学びは別々に起こることの方がイメージしやすいかもしれませんが、しかしながら、教師側が意図しない場面で2つの学びが同時多発的に起こることがあります。イメージできれば、意図的にそして効果的に2つの学びを誘発できるかもしれません。



発表をしている生徒

自分の考えと照らし
合わせている生徒

自分の考えをまとめる生徒

◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」が 同時に起こる①

写真右上の生徒が、自分の考えを述べている場面です。教師の意図としては、意見交流を通して生徒たちが様々な角度からの考えを知り、自分の考えを広げるなど、より確かなものにしていく場面でした（協働的な学び）。

しかし、写真手前の生徒は、個人思考の場面であり自分の考えが書けていない生徒でしたが、発表が始まったらすぐにそこから使える言葉を選んで、自分の考えとして一生懸命にまとめていました（この生徒にとっては個別最適な学び）。

◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」が 同時に起こる②

振り返りの場面です。本来であれば、学んだことをもとに個別で考え書き始める場面ですが、写真手前の生徒にとっては自信がないので、中央の生徒にいろいろと確認をしていました。写真右上の生徒も、その確認作業に参加しながらも、自分の考えを述べている場面です。

明確にどの生徒にとって、「個別最適な学び」または「協働的な学び」になっているのかは判断できませんが、教師の意図しない場面でこのような学びが起こっているようです。普段行っている授業の中で、意外とこのような場面があるのではないのでしょうか。



④単元計画の中での個別最適な学びと協働的な学びのパターン

伊達市立伊達小学校 丸山 賢司先生の実践	
学年・教科	小学校5年 理科
単元名	物のとけ方
単元の目標	物の溶け方の規則性を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題に解決しようとする態度を育成する。

○単元の指導計画

時	本時のめあて	評価の観点			主な学習活動	本時のまとめ
		態	知技	思判表		
1	水にとけて見えなくなった食塩はどうなるか予想し、計画しよう。			○	<ul style="list-style-type: none"> 食塩を水に入れて、食塩が水に溶ける様子を観察し、食塩などの物の溶け方について問題を見出す。 水に溶けて見えなくなった食塩の行方について予想し、調べる方法を考える。 	
2 3	水にとけて見えなくなった食塩はどうなるか実験しまとめよう。	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 水に溶けて見えなくなった食塩の行方について調べ、まとめる。 コーヒーシュガーや片栗粉を水に入れて、その時の様子を観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食塩は、水にとけて見えなくなってもなくなるらない。 物は水にとけても、重さは変わらない。
4	水にとけたものは、液の中でどうなっているか調べ、まとめよう。			○	<ul style="list-style-type: none"> コーヒーシュガーを入れた液と片栗粉を入れた液を比べて、気付いたことを話し合う。 物が水に溶けることをまとめ、水溶液について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> つぶが見えなくなり、すき通っていて、濃さが均一になっている。 物が水に溶けた液を、水溶液という。
5 6	物が水にとける量には限りがあるかどうか調べよう。	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 食塩とミョウバンを更に水に溶かす方法について予想し、その予想を確かめる方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 決まった量の水にとける物の量には、限りがある。 物によって、水にとける量には違いがある。
7	水よう液にとけ残った物をとくすにはどうすればよいか予想しよう。			○	<ul style="list-style-type: none"> 食塩とミョウバンを更に水に溶かす方法について予想し、その予想を確かめる方法を考える。 	
8 9	水よう液にとけ残った物をとくすにはどうすればよいか調べよう。	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 水の量を変えたり、水の温度を変えたりした時の、食塩とミョウバンの溶ける量を調べる。 	
10	水の量を変えたり、水の温度を変えたりしたときの、食塩とミョウバンのとける量についてまとめよう。		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 水の量を変えたり、水の温度を変えたりした時の、食塩とミョウバンの溶ける量についてまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 水の量を増やすと、物が水にとける量も増える。 水の温度を上げた時の、水にとける量の変化のしかたは、とくす物によって違う。
11	水にとけた物は、どのようにすれば取り出すことができるか予想しよう。			○	<ul style="list-style-type: none"> ミョウバンの水溶液から溶けていたミョウバンが出てきたことについて、問題を見出す。 水に溶けた物の取り出し方について予想し、その予想確かめるための方法を考える。 	
12 13	水よう液を冷やしたり、蒸発させたりして、とけている物を取り出すことができるか調べよう。		○		<ul style="list-style-type: none"> 水溶液を冷やしたり、蒸発させたりして、溶けている物を取り出すことができる。 	
14	<ul style="list-style-type: none"> 水にとけた物の取り出し方についてまとめよう。 物のとけ方について、学んだことをまとめよう。 		○		<ul style="list-style-type: none"> 水に溶けた物の取り出し方についてまとめよう。 物の溶け方について、学んだことをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 水よう液を冷やすと、とけていたミョウバンを取り出すことができる。 食塩は、水よう液を冷やしても、ほとんど取り出すことができない。 水よう液をじょう発させると、水にとけていた物を取り出すことができる。

【単元の指導計画のポイント】

単元全体を通して、「(主として) 個別最適な学び」の時間と「(主として) 協働的な学び」の時間を交互に設定し、一体的な充実を図る。

学習課題を解決するために実験方法を予想したり、実験結果をまとめたりする時間は、個別で考える時間を設定し、既習内容から考えを導き出したり、他者の考えから自分の考えを深めたりするなど、主に「個別最適な学び」の時間としている。

実験を行う時間は、グループ活動を中心とした、主に「協働的な学び」の時間としている。

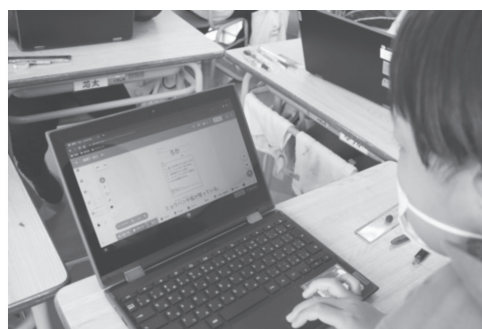
単元全体を見通して、「(主として) 個別最適な学び」の時間と「(主として) 協働的な学び」の時間を交互に設定し、一体的な充実を図っている。

【指導例】

○ (主として) 個別最適な学びの時間 (11/14時)

前時の学習を踏まえ、水に溶けた物の取り出し方について予想し、その予想を確かめるための方法を個人で考え、タブレットPCにまとめた。

思考段階においては、既習内容を活用したり、授業支援クラウドを活用して他者の考えを見たり、教師に聞いたりするなど、個々の児童に応じた方法で学習できるよう工夫している。(指導の個別化)



○ (主として) 協働的な学びの時間 (12・13/14時)

前時の学習で考えた実験をグループごとに実施した。協働による学びの質を高めるために、次のような指導や配慮が見られた。

- ・グループ内で適切な実験方法について意見交換させる。
- ・作業分担を明確にさせることで、効率的に実験を行う。
- ・グループごとに異なる実験を行い、比較・検討させることで思考を高める。



○ (主として) 個別最適な学びの時間 (14/14時)

これまでの実験結果から、物の溶け方の規則性についてまとめた。



3 各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント

【 国 語 科 】

Point!

- 既習事項を生かし、学習を調整していくような単元計画の工夫
- 課題を追究する過程において、他者と協働できる場面の工夫

例

「話し合い」に関する学習（話す・聞く）

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC での前時復習問題提示 ・どのように話し合いを進めていくか立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のめあて作成 ・各自の課題にあった議題を調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画をグループで共有（タブレット活用でクラウドから資料を共有）

国語科では、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を学習指導要領に位置付けています。

ICT の効果的な活用を含めた個別最適な学びや協働的な学びについても、学習過程を踏まえて、活用場面を考えることができます。



【 社 会 科 】

Point!

- ICT 端末を十分に活用して情報を集めたり、まとめたりする
- 数値情報をグラフに転換するなど個々の追究結果を、ICT を活用し共有

例

小学校 5 年 「国土の気候と地形の特色」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・調べる際に、インターネットを活用し、情報を収集 ・ICT 活用で資料整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対するまとめを、自身が作成した計画に沿って進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド上で学習課題を共有し、グループごとに今後の計画について話し合う

社会科では、「社会的事象」の理解と、事象に基づく考察が大切です。

ICT 機器を効果的に活用し、「社会的事象について調べまとめる技能」を育成します。また、調べて理解した知識を基に考察したことを、グループなど協働的な学びの中で深め、社会科の資質・能力を育成していきます。



Point!

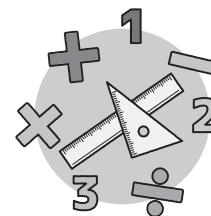
- ICT 端末を活用しながら既習事項を生かし、個人解決の場면을充実させる
- 他者と考えを共有し、集団解決できる場の工夫

例 中学校3年 「相似な図形」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容を基に ICT を活用してシュミレーションする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身に合った考え方で課題に取り組む ・日常に活用できる場面を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用で共同編集しながら、各自の考えを共有

算数・数学科では、具体を通して算数・数学の内容を確実に理解し、数学的に考える力を育成することが必要です。

データの整理や図形を動かすなどの学習内容や見通しや集団での問題解決の過程などで ICT 機器を効果的に活用する場면을適切に選択することで、数学的活動を一層充実させることができます。



Point!

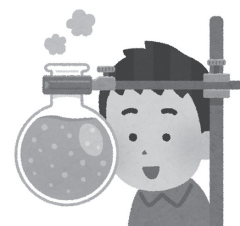
- 問題解決の活動を通じた資質・能力の育成
- 児童生徒が理科の見方・考え方を働かせる ICT の活用

例 小学校5年 「流れる水のはたらき」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等で実験の様子を撮影 ・情報を整理し、考察する 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する実験の計画を立てて進める ・タブレット等で実験の様子を撮影 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果を全体で考察してまとめる

理科では、児童生徒が理科の見方・考え方を働かせるために、どのような視点で自然の事物・現象を捉え、どのように考えるかを明確にして関与することが大切です。

「観察、実験の代替」として ICT 機器を活用するのではなく、問題解決の充実を図り、どの場面で ICT 機器を活用するのかを明確にするとことで、より効果的に必要な資質・能力を身に付けさせます。



【 生活科 】

Point!

- 学習対象への興味・関心の喚起や、記録した情報をもとにした伝え合いの充実
- 活動後に自らの取組を客観的に振り返り、活動のよさに気付く

例

小学校2年 「わくわく2年生」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然やインタビューをタブレットで撮影する ・気付いたことや感じたことを記録する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が調べたいことや伝え方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や静止画などを見せながら、気付いたことを伝え合う

生活科では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力の育成が大切です。

低学年の発達段階や特性を十分配慮してICT機器を活用し、多様な情報を記録し、その後の振り返りで客観的に考えることで、次の学習につなげることができます。



【 音楽科 】

Point!

- 様々な感覚を関連付けて音楽を捉える工夫
- ICT機器を活用し、学習の振り返りや学習成果を確認する

例

中学校2年 「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽制作ソフト等を活用し旋律を作る ・自身の演奏を動画撮影し記録する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の経験から学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・作った音楽をグループで発表し、感想やアドバイスを伝え合う

音楽科では、表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、生活や社会の中の音楽や文化と豊かに関わる資質・能力を育成します。

ICT機器を活用することにより、児童生徒が演奏のよさや課題を見つけ、よりよい表現を探究するなど、主体的に学習に取り組むことができます。



Point!

- 表したいことを見付け、適した方法で表現できるような学習過程の工夫
- 写真や動画など ICT 機器を活用して作品を鑑賞する

例

小学校6年 「ドリームプロジェクト」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・イメージにあう町を調べて情報収集する ・プログラミングソフト等を用いて作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身がイメージする町や学校を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のよさや美しさなどを伝え合う

図画工作・美術科では、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成します。

感じたことや想像したことなどを造形的に表すことや、作品のよさや美しさなど感じ取り自分の見方や感じ方を深める学習過程において ICT 機器を効果的に活用できます。



Point!

- 生活を見直し、解決するための学習過程の充実
- 実践した結果を評価・改善したり、改善策を検討したりする場面の設定

例

中学校2年 「健康・快適で持続可能な衣生活」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・製作の作業工程を調べたり、動画で撮影したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活や経験から学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことから、課題に対する改善策を検討する

家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通してよりよい生活の実現に向けて生活を工夫する資質・能力を育成します。

問題解決的な学習過程の中や、実習や製作で細かな動きを確認したいときなどに ICT 機器を活用することにより、安全で効果的な学習活動を行うことができます。



Point!

- ICT 機器を活用して、自身の変容に気付く場面の設定
- 他者と考えを共有し、集団解決できる場の工夫

例

中学校 1 年 「バレーボール」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームの様子を動画で撮影し、個人思考をする ・ 技を向上する方法を調べ練習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の状況から課題を設定し、学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の視点で見つけた課題や解決方法について交流する

体育・保健体育科では、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育成します。

ICT 機器を活用して撮影した動画を共有し、繰り返し視聴することで、問題解決に向けて自分の考えを明確にし、深めることができます。



Point!

- ICT 端末を活用しながら既習事項を生かし、個人解決の場面を充実させる
- 他者と考えを共有し、言語活動の充実を図る

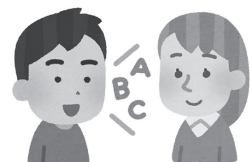
例

小学校 3 年 「学習した表現を使ってクイズ大会をしよう」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 使いたい表現や絵カードなどを調べる ・ 自身の発表の様子を動画撮影し、記録する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身が伝えたい内容を考え、計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クイズを出し合い、お互いのよさを伝え合う

外国語活動・外国語科では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、簡単な情報や考え方などを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成します。

ウェブ会議ソフトなどを用いることにより、距離の離れた場をつないだ学習や他者との意見共有・比較・検討など、児童生徒が主体的に学びに向かうことができます。



Point!

- 道徳的価値を多面的・多角的に考える場の設定
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める

例

中学校3年 「内なる自分に恥じない気高い生き方」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場や考えを選択する ・他者の考えを知り、振り返る中で考えを深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分ならどうするか」という観点で道徳的価値と向き合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの考えについて根拠に基づき、議論する

道徳科では、答えが1つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」への転換により、道徳性を養うことが求められています。

他者との考えの比較や全体の考えを共有したり、自身の思考の内容などをICT機器に記録したりしておくことで、学習状況や道徳性に係る成長の様子を蓄積し、授業改善につなげることができます。



Point!

- 探究のプロセスを踏まえ、目的や状況に応じたICT機器の活用
- 時間的・空間的制約を超えて考えを広げる単元計画の工夫

例

小学校5年 「わたしたちのふるさと未来図」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
<ul style="list-style-type: none"> ・自身のテーマに沿って体験やインタビューなどを行う ・収集した情報はICT機器を活用して整理、分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマから自身の学習課題を設定し、学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えやまとめを、様々な人に発信し共有する

総合的な学習の時間では、実社会・実生活の課題解決に向けて、問題解決的な活動が発展的に繰り返されます。

ICT機器を活用することにより時間や空間を問わずに音声・画像・データ等を蓄積し、相互の発信・受信のやりとりが可能になり、より探究的に学習を進めることができます。



Point!

- 解決に向けた話し合いや解決方法決定の場の設定
- ICT 機器を有効に活用し、お互いの考えを共有

例

生徒会活動 「1人1台端末のガイドラインを策定しよう」

個別最適な学び（個に応じた指導）		協働的な学び
指導の個別化	学習の個性化	
・自身の考えの根拠になる情報を収集する	・学校生活や社会問題から、解決方法について自身の考えをもつ	・タブレットを活用して個人の意見を比較し、合意形成する

特別活動では、様々な集団活動に主体的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する資質・能力を育成します。

学級活動や生徒会活動など活動のねらいに応じて ICT 機器を活用することにより、目標の達成に向けてより効果的に取り組むことができます。



どの教科においても個別最適な学びと協働的な学びがあり、それらを一体的に充実させることで、児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながります。ここで紹介したものは一例ですが、私たちが日々行なっている授業には、多くの個別最適な学びと協働的な学びがあります。これらのことを意識しながら授業づくりをしていくことで、児童生徒のよりよい成長につながるのではないのでしょうか。

Ⅲ 今後の方向性

今年度の研究を振り返って

今年度は、研究主題「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」の2年次として、個別最適な学びと協働的な学びの授業改善と具体的な実践、学びのポイントについてまとめてきました。

今年度の成果と課題には、次の点が挙げられます。

〈成果〉

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のため、2つの側面から授業改善の方向性についてまとめることができた。
- ・ 本研究所の委託校・実践校を中心に、胆振管内の実践事例を紹介することができた。
- ・ 各教科の学びのポイントについて、具体例を示しながらまとめることができた。
- ・ 次年度以降の方向性を示し、研究の道筋をつけることができた。

〈課題〉

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びについての更なる情報発信が必要である。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びを1単位時間の授業や単元の中でどのように位置付けるのかということについて研究が必要である。
- ・ ICTの効果的な活用について、どのような場面で有効なのかを検討する必要がある。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの評価について研究が必要である。

次年度以降については、この課題に対し、胆振管内の各学校での実践例を交えながら、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりについて研究を深めていきます。

◆参考資料一覧

- ・学習指導要領（平成 29 年告示）、学習指導要領解説（文部科学省）
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（文部科学省）
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供達の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）（文部科学省）
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（文部科学省）
- ・令和 4 年度小学校・中学校教育課程編成の手引（北海道教育委員会）
- ・校内研修シリーズ No. 94 「令和の日本型学校教育の構築を目指して」（N I T S）
- ・研修プランシリーズ「主体的・対話的で深い学びの 3 つの視点を養う」（N I T S）
- ・令和の日本型学校教育 Q&A（2022 年 2 月 明治図書）

◆研究・執筆

役職名	氏名	所属学校	職名
所 長	坂 本 博	登別市立幌別中学校	校 長
副 所 長	永 井 修	伊達市立伊達小学校	校 長
事 務 局 長	高 橋 賢 治	登別市立鷺別小学校	主幹教諭
事務局次長	白 井 賢 司	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所 員	渡 辺 隆 之	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所 員	永 井 久	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所 員	石 井 芳 政	伊達市立伊達西小学校	教 諭
所 員	藤 田 佳 嗣	伊達市立光陵中学校	教 諭
所 員	関 川 恭 平	登別市立若草小学校	教 諭
所 員	黒 川 知 恵	白老町立白老小学校	教 諭
事 務 職 員	水 留 恵美子	胆振教育研究所	

◆あしがき

この冊子が皆さんの手元に届く頃には今年度も終わりに近づき、年度末の業務や次年度に向けての準備など、毎日忙しく生活していることと思います。皆さんにとってこの1年はどのような年だったのでしょうか？今年1年を振り返る際、この冊子を手に取り、今日の学校教育が進む道筋について考え、児童生徒にとってよりよい環境を作ろうという思いになっていただけるとうれしいです。

新型コロナウイルスによる制限が少しずつ緩和されICT機器の活用により、学習環境はさらにアップデートされてきています。様々な自粛が始まった時には予測困難なことばかりで戸惑うことが多かったと思いますが、困難にぶつかる度に未来を担う児童生徒のためにできることを考え、学びを止めずに進んできたからこそ、今があるのだと感じます。

今年度、本教育研究所では個別最適な学びと協働的な学びについて、一体的な充実や、各校の実践事例、各教科のポイントについて研究をまとめました。実践事例では、いち早く研修に個別最適な学びと協働的な学びを取り入れて実践されている様子に、先生方の思いを感じました。ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。それぞれの視点から「個別最適な学びと協働的な学びとは何か」ということを考え、日常の教育活動でご活用いただければ幸いです。

次年度も個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりについて、より具体的な取組や実践事例などをまとめ、情報発信をしていきたいと考えております。今後とも、本教育研究所に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

担当所員 黒川 知恵

令和4年度 研究紀要 第238号

《研究主題》

個別最適な学びと協働的な学びの

実現に向けた授業づくり

～2年次～

発行年月日 令和5年2月27日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 坂本 博

印刷 デザインワーク・エージ